

第42回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)●(2016年10月10日～12日開催、北海道札幌市)

ASEANと日本のつながりの強化

～地方の活性化を梃子に～

10月10日～12日、北海道札幌市において、第42回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)を開催した。北海道での初めてのAJBM開催であることから、「ASEANと日本のつながりの強化～地方の活性化を梃子に～」との全体テーマの下、「観光」「食」「地域資源」という三つの切り口から、日本とASEANの関係強化について議論を行った。また、2014年の第40回会議から3年連続で、日本貿易振興機構(JETRO)が主催する「サービス産業国際シンポジウム」と連携する形でプログラムを構成した。

日本からは、小林喜光代表幹事、川名浩一・片野坂真哉アジア・中東委員会委員長(第42回AJBM共同議長)をはじめ、経済同友会会員および関係者48人、北海道経済同友会会員40人、ASEAN 10カ国から73人の、総勢161人が参加した。



■第42回日本・ASEAN経営者会議プログラム

2016年10月10日～12日(役職は開催当時)

一日目 ●AJBM推進委員会議(各国代表者会議)

二日目 ●開会式

開会挨拶: 川名 浩一 アジア・中東委員会 委員長(第42回AJBM共同議長)

主催者挨拶: 小林 喜光 経済同友会 代表幹事

歓迎挨拶: 横内 龍三 北海道経済同友会 代表幹事

来賓挨拶: 辻 泰弘 北海道 副知事

●全体会議 I

講 師: 木村 福成 慶應義塾大学 経済学部教授

Ms. Chian Voen Wong, Director, Mayer Brown Consulting

中村 好明 ジャパンインバウンドソリューションズ 取締役社長

パネリスト: Tan Sri Dr. Michael O.K. Yeoh, Co-Founder & CEO, The Asian Strategy & Leadership Institute

●全体会議 II

講 師: 吉川 廣司 ジャパンショッピングツーリズム協会 企画本部本部長

三井 真 北海道経済部 食関連産業室長

伊藤 博之 クリプトン・フューチャー・メディア 代表取締役

●分科会

●開会式

分科会報告: Ms. Carrie Bee Chuabio Hao, Partner, Japan Desk, ROMULO LAW OFFICE

Ms. Ooi Suan Kim, Chairman, Builders Biomass

藤川 佳則 一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 准教授

閉会挨拶: 片野坂 真哉 アジア・中東委員会 委員長(第42回AJBM共同議長)

第43回AJBMについて: Dr. Thanong Bidaya AJBMタイ国内委員会 代表

三日目 ●第4回サービス産業国際シンポジウム

開会式

開会式では、司会の川名浩一共同議長による開会挨拶を受け、小林喜光代表幹事が主催者挨拶を行った。小林代表幹事は、世界経済の統合が加速する一方、欧米では、経済格差や移民問題などへの市民の怒りが政治を動かし、英国のEU離脱や米国大統領選挙における「トランプ現象」などの形で顕在化していると指摘した。さらに、そうした中で「ASEANと日本の経営者は、これまで着実に続いてきた経済統合の動きをさらに深めていくことが務めである」と述べた。

続いて、横内龍三北海道経済同友会代表幹事が挨拶を行い、「世界的な景気

停滞感の下で、保護主義的な動きがみられるときこそ、ASEANと日本の経済人が率先して相互理解を深め、国際交流をさらに深化させることが極めて重要である」と述べた。

来賓の辻泰弘北海道副知事からは、ASEANとのつながりをさらに強めていくための方策として、四季折々の変化や自然の豊かさなどの北海道の特徴を活かした取り組みが紹介された。



小林喜光代表幹事
(三菱ケミカルホールディングス 取締役会長)

全体会議 I

全体会議 I の前半では、三人の講師が登場し、グローバルな生産ネットワークの視点からみたASEAN各国経済の階層構造と日本との連携強化、2015年末に創設されたASEAN経済共同体の現状とさらなる連結性(connectivity)の向上、日本におけるインバウンド観光の現状と持続的な価値創造に向けた課題について、それぞれ基調講演を行った。

後半では、基調講演者を含む四人のパネリストとモデレーターが、「観光」「食」「地域資源」の三分野における日本・ASEANの関係強化、連携の可能性について、パネル・ディスカッションを行った。セッションは、日本とASEAN

が関係を深化させる上で、地方と地方、中小企業と中小企業による、国境を越えた連携が特に重要性を増すという議論で締めくくられた。

全体会議Ⅱ

全体会議Ⅱでは、片野坂真哉共同議長の司会の下、三人の講師から、北海道における「観光」「食」「地域資源」分野での特徴的な取り組みが紹介された。

「観光」については、外国人観光客が、旅先での買い物を通じて北海道の暮らしや文化に触れる環境を整え、「お土産」を持ち帰ってもらうことを通じて、海外での北海道産品への関心・需要を喚起する取り組みが紹介された。

「食」については、北海道庁による「道産食品1,000億円輸出プロジェクト」という意欲的な取り組みが紹介され、その成功の鍵は海外顧客のニーズの把握にあることや、ASEANとの協力を通じて世界市場を獲得することへの意欲が表明された。

「地域資源」では、北海道の企業が開発したポーカロイド(ソフトウエア)「初音ミク」とその海外での人気ぶり、北海道限定バージョンを通じた観光プロモーションや商品化の取り組みについて説明があった。



分科会

全体会議での包括的な議論を踏まえ、参加者は三つの分科会に分かれ、意見交換を行った。

分科会1では、「観光」をテーマに、タイ、インドネシア、日本のパネリストが登壇した。日本へのインバウンドという観点では、もともと冬の観光地とし

て有名だった北海道ニセコ地区に、ラフティングなど夏のアクティビティを導入することで、通年で国内外から観光客を呼び寄せることに成功した事例や、レンタカーで北海道を周遊するツアー・パッケージをシンガポール市場向けに展開し、同国からの訪日観光客を大幅に拡大させた事例等が紹介された。

分科会2では、「食」をテーマに、インドネシア、ミャンマー、日本のパネリストが登壇した。ASEANの登壇者からは、技術やノウハウの導入という協力を日本から得ることで、自国の食品産業の育成・高度化を図りたいとの期待が示された。日本側からは、日本産のコメや札幌ラーメンの海外展開、道産食品のASEANでの販路開拓に関する展望や課題が紹介された。JETROを代表し出席した下村聡理事からも、JETROとしても日・ASEAN協力を積極的に支援したいというコメントがあった。

分科会3では、マレーシア、フィリピン、ベトナム、日本のパネリストが登壇し、分科会のテーマである「地域資源」、特に全産業に共通する重要な要素である「人材」について意見交換を行った。日本や一部ASEAN諸国からは、人材不足が大きな問題として挙げられたが、一方でASEAN全体を見渡せば、人材は潤沢だという指摘もあった。これを受けて、人材の確保・活用に関する考え方や枠組みを、国単位、産業単位から拡大し、国境を越えてASEAN全体に広げることが課題だという意見が交わされた。

閉会式

閉会式では、各分科会のモデレーターから、それぞれのセッションでの議論・

意見交換について報告が行われた後、片野坂共同議長が閉会挨拶を行った。片野坂共同議長は、今後の日・ASEANのつながりの強化を考える上での三つのキーワードとして、「双方向のコミュニケーション(two way communication)」、「継続的な発展(never ending development)」、「地方と地方のつながり(local to local)」の三点を挙げて、会議を締めくくった。

次回AJBMは、2017年秋にタイで開催予定である。

第4回サービス産業 国際シンポジウム



最終日の10月12日、JETROが主催する第4回サービス産業国際シンポジウムが開催された。JETROは、日本のサービス産業の競争力や優位性を国際的に発信し、日本が同分野においてイニシアチブを発揮することを目的に、2013年より同シンポジウムを開催している。今回は初めての日本での開催となり、地元・北海道をはじめ、日本とASEANの有力企業のトップによる講演が行われた。

本会からは、開会に当たり川名浩一アジア・中東委員会委員長が挨拶を行ったほか、片野坂真哉ANAホールディングス取締役社長も登壇し、「観光と航空によるコラボレーション」と題する講演を行った。

